

「情報」を学ぶ

富山県教育委員会学校教育課

主任指導主事 藤 井 修 二

総務省「通信動向調査(2004)」によると、インターネット利用率は20歳代が92.3%と極めて高くなっています。ネットショッピング・ネットバンキングから納税に至るまで行政や民間が積極的に振興を図ったこともあり、ネットワークを利用したサービスが定着しています。若い層の多くが携帯電話を所有し、青少年の行動や意識も変化しているとの報告もあります。

このような中、高校生が、情報メディアや「情報」の信頼性・信憑性を適切に判断するためのメディアリテラシの教育が求められています。「『情報』には、必ず『主観』がまじっていて、客観的な情報というものはない」ということから、常に「情報」の信憑性というものを意識する必要性があります。そのためには最低限の動作原理の理解や、基本的な知識の理解と、人間性への洞察能力の育成が必要です。

電子メールはワープロ程度の操作技術で読み書きができますが、Ccを含めた発信先を確認せず返信メールを出してよいわけではありません。必要なのは、様々なことを「考える」ための基礎としての「情報」の科学的な理解であり、「情報」の送り手を洞察し、批判的に読み解く能力であるメディア・リテラシと、利用する際の法的な制約とその意味をしっかりと身に付けることです。

一方、情報メディアの変化の特徴は、メディアの所有も利用もパーソナル化している点です。Web、Blogなど小中高生が自分専用のメディアを持つ傾向が高まっており、それに対応して、家族や教師からメディア利用の実態が見えにくい状況になりつつあります。

情報科教員には、生徒の実態を踏まえた「情報」の本質を指導する使命があり、情報メディアの仕組みや役割、その効果的な利用方法をきちんと理解させる必要があります。

今年、「情報科」は一部の国立大学の情報関係学部等での大学入試に導入されました。情報科教員が、互いの学習指導法を持ち寄り、学習内容の蓄積と共有をすることが大切だと考えます。情報部会におかれては、会員相互の連絡を活発化させていただき、草創期から成熟期へと脱皮するためにも、より一層のご努力に期待しております。

おわりに、情報部会を運営しておられる役員の方々に感謝いたしますとともに貴会のますますの発展とご活躍をお祈り申し上げます。

平成18年3月22日